

麦の穂

発行責任者 医療法人光臨会 理事長 荒木 攻

66

平成28年
1月12日発行

医療法人 光臨会
荒木脳神経外科病院
Araki Neurosurgical Hospital

新年御挨拶

平成28年元旦
医療法人光臨会
理事長 荒木 攻

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

今、世界はテロにより治安情勢は極めて不安定でシリア内戦のため400万人を超える大量のシリア難民を生み出しています。いつ、だれが、どこでテロに遭遇するかは誰にもわかりません。振り返って日本の場合はテロが皆無とは言えないのでしょうが、欧米諸国のような実際の被害は今のところありません。もし日本がテロ攻撃にさらされる様なことになると国内は大混乱に陥り、国家資源の甚大な損失をきたし、景気も低迷することになるでしょう。どうか今年は申（さる）年にあやかり「難が去る年」になってほしいと願うものであります。

昨年の広島での話題は、黒田投手の広島東洋カープ復帰でした。24年ぶりのリーグ優勝と期待されましたが残念ながら4位に終わってしまいました。今年こそ優勝を期待したいものです。

医療界では、一昨年より2025年に向けた病床機能の報告制度が始まり、当院では高度急性期、急性期、回復期の機能を併せ持った病床機能としました。

8月9日（日）には、「第3回 Neurosurgery Update in Hiroshima」が開催され、「脳卒中のUpdateな予防・治療・リハビリテーション」をテーマに、国内から著名な教授陣を講師としてお迎えし、270名超の参加者があり盛会裏に終えることが出来ました。

また、一昨年からの広島市西区医師会による「西区在宅あんしん病院事業」では、西区の在宅医療は西区内で完結を目指し当院が拠点病院として支援する役割を担ってきました。今年もこれまで同様、住民が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう地域との医療連携を推進してまいります。

9月9日（水）には、平成27年度救急医療功労者（団体）知事表彰を受けました。また、11月には当院の医療の質・ケアプロセスの充実に向け病院機能評価を更新のため受審し、更なる病院機能の向上に取組みました。

診療体制としては、昨年6月から脳血管内治療科を設け、脳の病気に対し頭部を開頭せずに血管の中からカテーテルを使ってアプローチする手法を積極的に行っており、また、本年1月からはSCU（脳卒中ケアユニット）の施設基準を届出するなど、脳卒中患者の初期治療を手厚く効率的に行ってまいります。

今年4月には診療報酬改定が控えております。本体と薬価を併せた全体でマイナス改定になるといわれており、医療機関を取り巻く環境は一層厳しいものとなりそうです。

さて、当法人は7月1日に病院開設30周年を迎えます。まずは原点に戻り地域に望まれる医療は何かを問い合わせながら、地域医療に貢献してまいりたいと思います。また、この間、人材育成の重要性を痛切に感じており、このたび光臨会は職員用研修施設「開東館」を庄原市に設け昨年11月7日に開所式を行いました。業務の研修のみならず人としての育成を図ってまいります。

本年もご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。



もくじ

- 1 新年御挨拶
- 2 着任医師の紹介・インフルエンザ流行期の到来
- 3 「平成27年度広島県救急医療功労者知事表彰」受賞
「平成27年度広島県臓器移植等推進功労者知事表彰」受賞
- 4 西区民まつり・光臨会ソフトバレーボール大会
- 5 連携医療機関のご紹介 —広島中央保健生活協同組合 福島生協病院—



着任医師の紹介

脳神経外科部長兼脳血管内治療科部長 荒木 勇人 (あらき はやと)

◎出身校・略歴：

山口大学医学部、2001年（平成13年）卒業。
広島大学脳神経外科入局。広島大学病院、県立広島病院、
国立病院吳医療センター、松江赤十字病院、市立三次中央病院、
マツダ病院で、脳神経外科診療に従事。



◎資格：

脳神経外科専門医、脳卒中学会専門医、
脳神経血管内治療学会専門医

◎どのようなことに気をつけて診察・診療を行っているか：

患者さんと十分相談をしながら治療方針を決めるようにしています。

◎今後の展望：

脳神経外科病院の専門性を生かし、チーム医療で地域に貢献したいと思います。脳卒中の分野では、最近、脳主幹動脈急性閉塞に対する脳血管内治療のエビデンスが確立しました。従来の血栓溶解剤(t-PA)静注療法に加え、一刻も早い脳血管内治療による再開通が望まれます。当院での脳神経血管内治療学会専門医は3名となり、さらに充実した体制で脳卒中治療が提供できるものと考えます。

インフルエンザ流行期の到来

今年もインフルエンザウイルスの流行期が到来してきましたね。

皆さんはインフルエンザワクチン接種を受けられましたか？

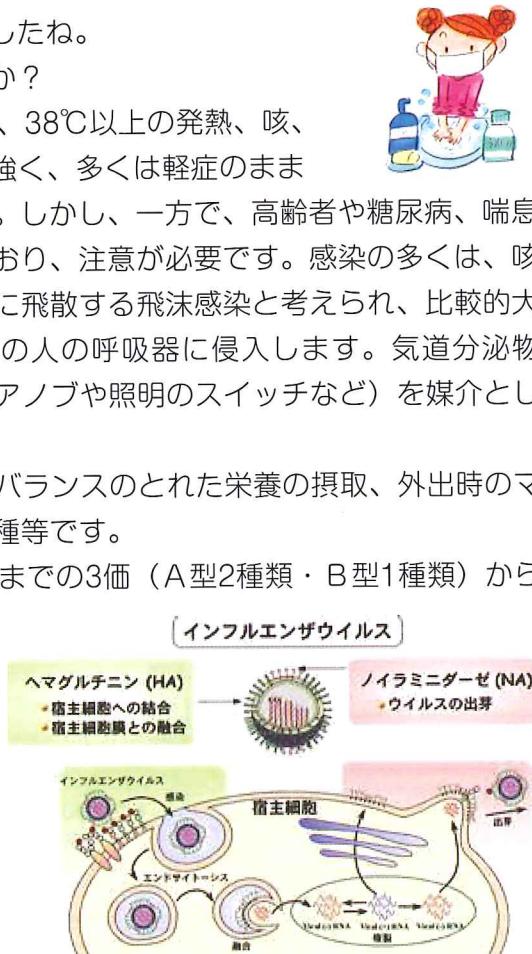
インフルエンザウイルスの潜伏期間は、1~3日間と短く、38℃以上の発熱、咳、悪寒、咽頭痛、全身倦怠感、頭痛が見られます。感染力は強く、多くは軽症のまま回復し、抗インフルエンザ薬の治療も有効とされています。しかし、一方で、高齢者や糖尿病、喘息等の基礎疾患がある人を中心に重症化する例が報告されており、注意が必要です。感染の多くは、咳やくしゃみによって、気道分泌物に小粒子が含まれて周囲に飛散する飛沫感染と考えられ、比較的大きい粒子は、およそ1~1.5mの距離であれば、直接周囲の人の呼吸器に侵入します。気道分泌物は、さらに罹患者の手指や周囲の環境の高頻度接触面（ドアノブや照明のスイッチなど）を媒介として他の人に接触感染する危険性もあります。



インフルエンザの一般的な予防の基本は、十分な休養とバランスのとれた栄養の摂取、外出時のマスク着用、帰宅時の手洗い、うがい、流行前のワクチン接種等です。

2015-16シーズンのインフルエンザワクチン株は、昨年までの3価（A型2種類・B型1種類）から4価（A型2種類・B型2種類）に変更されました。ワクチンを接種したからといって、100%からないというわけではありませんが、発症や重症化を防ぐためにも流行期にワクチンを接種することは大切です。ただし、接種してからワクチンの効果ができるまで2週間程かかりますので、早めに接種されることをお勧めします。

感染管理認定看護師 島中 延枝



「平成27年度広島県救急医療功労者知事表彰」受賞

当院は、地域の救急医療体制確立のための貢献が認められ、昨年9月9日（救急の日）「平成27年度広島県救急医療功労者知事表彰」を受賞いたしました。当院は平成21年度にも理事長 荒木 攻が個人でも表彰を受けており、このたびは団体表彰として荒木脳神経外科病院で2つの知事表彰を受けております。

これは広島県が多年にわたり救急医療の整備充実に貢献し、救急医療に関する功績が顕著な団体や個人に対して、その功績を称え表彰するものであり、広島県では、昭和58年に創設され今回で33回目となります。

当院は昭和61年の開院以降、救急を断らない姿勢を徹底し、近年では年間4,200人程の救急患者を受け入れております。平成23年からは広島市民病院の救急医療コントロール事業に協力し、平成26年からは西区医師会が整備を進める在宅医療拠点ともなり、広島都市圏で発生する脳神経外科領域の救急搬送を多く受け入れてきた実績が評価され、長年にわたる広島市の救急医療体制拡充への貢献に対し今回の受賞となったものと自負しております。

今後も救急医療充実のため、より一層努力してまいりますので、ご支援のほどよろしくお願ひします。

院長 沖 修一



「平成27年度広島県臓器移植等推進功労者知事表彰」受賞

昨年、平成27年度広島県臓器移植等推進功労者知事感謝状贈呈式が行われ、当院の岡本正志看護師が、めでたく県知事表彰を受賞しました。岡本看護師は平成26年度より院内移植コーディネーターとして活動しています。

院内移植コーディネーターの活動内容は、臓器移植提供者およびその家族の意思を尊重して、移植が適切かつ円滑に行われるよう調整を行うことです。昨年度、当院で初の心停止下臓器提供が施行され、ドナーの方から腎臓と角膜が摘出されました。その際に、院内移植コーディネーターとして関わり、大変貴重な体験をされました。数ヶ月後には、日本臓器移植ネットワーク（JOT）より腎臓と角膜がそれぞれ無事にレシピエントに移植されたという報告がありました。腎臓移植を受けた方に関しては透析治療を受けなくてよくなったとの記載がありました。臓器提供により対象の方やそのご家族の人生が大きく変わるということを岡本さんは実感されたのではないでしょうか。

当院には臓器提供経験医師があり、中小病院でも心停止下臓器移植は可能です。中小病院では症例が少ないだけに、日ごろからの準備やシミュレーションを行い、倫理問題についても十分検討を行いながら、臓器提供が円滑に行われるよう、これからもますます業務に励んでいただきたいと思います。

院長 沖 修一



西区民まつり

平成27年11月1日（日）、広島サンプラザおよび西部埋立第5公園にて開催されました「第31回西区民まつり」に、当院の介護予防事業の一環として地域貢献を果たす目的で参加致しました。

各職種の専門性を活かした参加・体験型の催しとなるように今回は『体成分分析装置（In Body）を用いた筋肉量・体脂肪の測定』（看護師）、『体力測定～転倒リスクチェック～』（リハビリ療法士）、『臓器移植相談』（院長 沖 修一）を分かりやすい内容で実施させて頂きました。

体力測定は49名、In Body測定は55名と多数の参加があり、地域住民だけでなく遠方からお越しになられた方にも参加して頂き、熱心に取り組まれる姿や健康への意識の高さがとても印象的でした。今回も大盛況となり大変嬉しく思います。

今後も介護予防事業の一環として、地域住民の方々にとって健康につながる有益な活動を続けて参りたいと思います。

地域連携推進委員会 リハビリテーション部 土井 貴詔



光臨会ソフトバレーボール大会

平成27年9月18日（金）、西区スポーツセンターにて「医療法人光臨会ソフトバレーボール大会」が開催されました。今大会で第8回を迎えた例年よりたくさんの158名の参加者が集まりました。当日までに練習をして、チームワークを高める気合十分な職員も多く、試合当日は各チーム熱戦を繰り広げました。たくさんの職員の声援と歓声の中、診療放射線チームの2年連続優勝が決まりました。準優勝はリハビリチーム、3位は医師チーム、診療補助チームとなりました。負けたチームも気持ちの良い汗を流し、スポーツの秋にぴったりな行事だったと思います。スポーツを通じて、多職種の人との交流を深めることができ、日々の業務の円滑化に繋げることができました。

福利厚生委員会 事務部 井村 美智子





広島中央保健生活協同組合 福島生協病院

住 所：〒733-0024 広島市西区福島町一丁目24番7号

T E L：082(292)3171(代表)

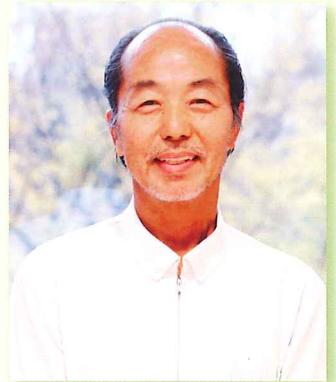
F A X：082(294)4551(代表)

診療科目：内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・神経内科
糖尿病内科・外科・肛門外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科
婦人科・皮膚科・泌尿器科・リハビリテーション科

理事長名：藤原秀文

院 長 名：田代忠晴

診療時間	月	火	水	木	金	土	日/祝
8:30～11:45	●	●	●	●	●	●	—
13:30～16:30	●	●	●	●	●	—	—



院長 田代 忠晴先生

※外来受付時間・休診日は診療科目によって異なることや変更になっている場合があります。

事前に必ず病院に直接ご確認ください。

※土曜午前のみ、午後診は科により異なるため要確認です。



新病院の竣工・開院のご報告

福島生協病院は、約10年の準備期間を経て平成26年4月に新病院建設に着工、1年3か月の工期を経て平成27年9月1日に開院しました。新病院は地上8階建て、2階南側の窓は平和大通りの樹木の緑を映し、平和の「森」の姿を身にまとっています。建物内部も「森」を通じて患者様が訪れるイメージした落ち着いた色調で統一しました。

最期まで安心して住み続けられるまちづくりをご一緒に

当院の歴史の概要をご紹介します。被爆後10年を経て、差別・貧困・被爆に苦しむ地域に医師1人、看護師1人、事務1人の福島診療所を開設しました。その4年後に福島病院となり、増床と増改築を重ね、昭和58年に総合病院化しました。平成16年に279床となり、第4次改正医療法に対応して平成17年に佐伯区に114床の生協さえき病院をつくりました。これにより福島生協病院は現在の165床となりました。

地域の医療・介護要求に応えた当院の展開は、西区においては荒木脳神経外科病院様をはじめ地域の先生方のお力添えがありましたことを、心から感謝しております。

創立時から貫いてきた無差別平等、患者の立場に立つ医療というDNAを引き継ぐとともに、地域の方々と協力して、地域包括ケアの一端を担ってまいりたい所存です。

今日の超高齢社会、いわゆる「2025年問題」への対応がすべての医療機関に求められる「地域包括ケア」時代を迎えています。広島市西区は、独居または二人暮らしの高齢者世帯が市内の中でも特に多い地域です。さらに認知症の患者様も増えております。

当院は、西区医師会在宅あんしんネットワークにおいて在宅診療を後方支援する病院として医療・介護相談窓口の機能を果たさせていただいております。皆様と協力し「地域で最期まで安心してくらしたい」という、住民の皆様の願いに応えてまいりたいと決意しています。

新病院の機能を地域医療、地域福祉・介護に役立てる

新病院は2つの一般病棟に加え、新たに回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟を持ち、「地域包括ケア」にいっそう貢献する陣容です。地域の先生方からのご紹介に応え、当院に紹介して「良かった」と言っていただけるよう精進して参ります。

生協内科クリニックを福島生協病院と統合し、初診・再診の外来と慢性疾患を対象とした予約外来で「かかりつけ医」機能を強化します。地域の組合員と一緒に保健予防活動を支援し、「地域丸ごと」健康づくりをバックアップします。在宅療養支援病院として機能を強化し、在宅診療部を新設し、地域の先生方と連携を強めます。

総合診療医・家庭医療後期研修プログラム(Ver.2.0)も認定されました。医師研修機能も強化します。

福島生協病院の出発となった福島診療所の開設から「還暦」を迎える年に新たな出発をしました。建物はできました。これからは「魂」を入れてまいりたいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



医療法人光臨会 理念

- 一、皆様に安心していただける、
全人的な医療と介護を目指します

荒木脳神経外科病院 理念

- 一、脳神経外科としての専門性を軸に、
幅広い診療体制で地域医療に貢献します
一、急性期医療の中核病院として、
高機能で質の高いチーム医療を行います

運営方針

1. 「医療の原点は救急である」
2. 快適な療養環境と接遇の提供
3. チーム医療の推進と相互啓発
4. 「医療と福祉の複合化」の推進

患者様の権利

医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院は、職員全員が次のような患者様の権利を尊重し、納得と同意に基づいた医療を行います

- 個人の尊厳が守られる権利を尊重します
- 最善かつ安全な医療を受ける権利を尊重します
- 医療に関して知る権利を尊重します
- 個人のプライバシーが守られる権利を尊重します
- 自分自身の治療等について自分で決定する権利を尊重します
- 自分自身の治療について他の医師の意見を聞く権利を尊重します(セカンドオピニオン)
- 苦情を申し立てる権利を尊重します

患者様の義務

- 患者様には適切かつ安全な医療を受ける為、診療上必要な自らの情報を正確に伝える義務があります
- 患者様にはお互いに快適な療養生活を受ける為に、定められた規則を守る義務があります。

外来担当医表

平成27年12月1日～

		月	火	水	木	金	土
脳神経外科	午前	初診(1診) 主任部長荒川	荒木(第) 院長 沖	副院長江本 診療副部長加納	広大		
		再診(2診) 荒木(第)	院長 沖 主任部長荒川	診療部長山崎 副院長江本	医長 谷		
	午後	初・再診(1診) 医長 谷	診療部長山崎 太田	広大 診療副部長加納	医長 谷 副院長江本	広大	
		再診(2診) 太田					
脳神経内科	午前	3 診			青木		
総合診療 (内科・外科)	午前	3 診	診療部長野村	診療部長藤井	診療部長藤井	診療部長藤井	診療部長渡辺
	午後	3 診	診療部長渡辺	診療部長渡辺	診療部長野村	診療部長渡辺	診療部長野村
	午前	検査	診療部長渡辺	診療部長渡辺	診療部長野村	診療部長渡辺	
	午後	検査		診療部長野村			
外 科	午前	4 診	診療部長藤井				
脳神経外科 形成外科 消化器内科	午前	5 診		北野病院(形成) ※平本	理事長荒木 (再診)		消化器内科 井上

診察時間

◆完全予約制

午前 9時～12時
(初診受付：午前 11時30分迄)
午後 3時～6時
(初診受付：午後 5時30分迄)

救急は 24 時間受付けております

※形成外科

平本先生(北野病院 形成外科)

第2水曜日 毎月1回

※井上名誉教授

第2土曜 毎月1回

医療法人光臨会



荒木脳神経外科病院

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目8-7
TEL 082-272-1114 FAX 082-272-7048
E-mail info@arakihp.jp
ホームページアドレス http://www.arakihp.jp

荒木訪問リハビリテーション

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目8-7
TEL 082-527-1123 FAX 082-527-1127

荒木クリニック 通所リハビリテーション

〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6100

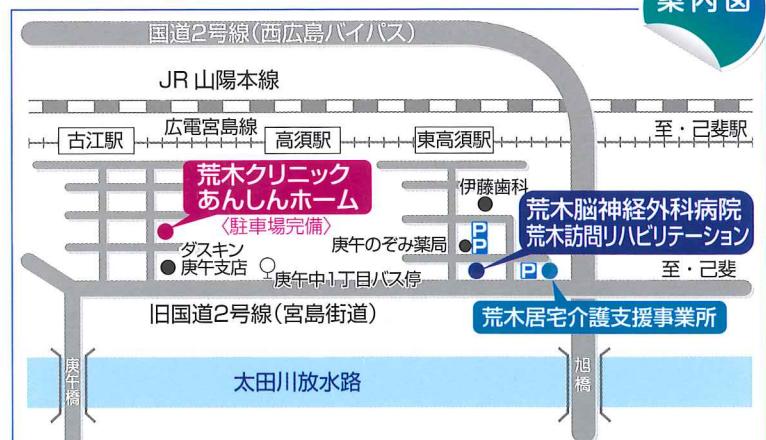
あんしんホーム(認知症対応型共同生活介護施設)

〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6600

荒木居宅介護支援事業所

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目1-4-201
TEL 082-507-6300

案内図



○自動車

西広島バイパス「庚午出口」より

宮島方向へ100m(宮島街道沿い)

○広島電鉄・宮島線／「東高須」下車 徒歩3分

○広島バス25号線／「庚午北2丁目」バス停前



- 職員からの多数の応募の中から当院の医療安全標語が『報連相 安全管理の 合い言葉』に決定し、1年間この標語を合い言葉に、業務を遂行していきます。
- 12月より外来担当医表が変更になりました。